



入学おめでとう

校長 鈴木 弘

新入生の皆さん、入学おめでとう。
『立教学院一環連携教育』の構築という大きな流れの中で、二〇〇〇年に立教池袋中学校が開校して以来、第一〇回目の入学式を迎えました。

入学式の式文には、第一二回入学式とあります。これは、一八九七年（明治三〇年）の第一回の立教中学校入学式から数えて、君たちが一一二回目の新入生であることを示しています。立教学院は、アメリカ聖公会より宣教師として派遣されたチャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって創立されました。

江戸幕府が鎖国政策を捨てて間もなく、国内が政情不安の中、当時三〇歳の若き外国人宣教師ウィリアムズ主教は、福音の伝道という強い信念を持って、長崎に上陸されました。そして明治に入り、ウィリアムズ主教は築地の外国人居留地（現在の聖ロカ国際病院所在地）に『セントポールズ・スクール（立教学校）』と呼ばれる私塾を開かれました。当時わずかに八名で出発した聖書と英語を教える、この一私塾が今日の私たちの立教学院の原点です。一八七四年（明治七年）のことです。

従って、今年度は立教学院創立一三五周年の年になります。そして西暦二〇〇九年、かつての立教中学校という名を、立教池袋中学校・高等学校と改め、中高六年制を実現する新たな学校としてスタートしました。それから、ちょうど十年。今年度は本校にとって節目の年になります。

本日は、一三五名の新入生を迎え、また本校の新しい歴史の一ページが開かれます。教職員一同、君たちと共に実りの多い学校生活を、築き上げて行きたいと思っております。本校の教育は「キリスト教に基づく人間形成」を目的として行っています。

一人ひとりの生徒は、神様から愛されているかけがえない存在であり、それぞれの人格は互いに尊重されなければなりません。それぞれ異なる環境で、異なる資質を持った生徒が、互いに他を尊重し合い、共に学び生活することが大切です。『キリスト教に基づく教育』とは、これらのことを土台に据え、私たちの創造主を敬いながら行われる教育です。

本校では、学校生活の基本に、祈りを置き、礼拝や聖書の勉強を重視しています。そして毎日の学校生活の中で、自由を尊重しながらも、節度と寛容、敬愛と謙譲、秩序とマナー、そして感謝を持って生きられる生徒を育てることに、力を注ぎます。

そのために、立教学院一環連携教育構想で定めた立教学院各校共通の、次の二つの教育目標を目指しています。

一つは「テーマを持って真理を探究する力」
つまり、神様から自分に与えられた力を自ら発見し、これを伸ばしてより広い視野のもとに判断する力を養い、強い意志をもって真理を探究する人間の育成を目指します。

二つ目は、「共に生きる力」
つまり、互いに理解し合い、自己本位でなく、共に助け合って、広く国際社会にも目を向け、共同生活を豊かにすることが出来る人間の育成を目指します。

さて新入生の君たちにとって、いよいよ中学校生活が始まります。何事も初めが肝心です。君たちには、入学にあたり、次の三つのことを、ぜひ心に留めて欲しいと思います。

その一つは、まず自分の夢や目標をハッキリと持つて欲しいと言うことです。一度それらを書き出して、自分の夢や目標を、毎日

の生活の中で、しっかりと持ち続けること、たとえ達成できなくても、知らず知らずのうちに、夢や目標に近づいていくものではないでしょうか。勿論それには、辛い努力も必要です。また、一歩一歩前に進むばかりでは限りません。しかし、間違えないことは、夢や目標に近づくことは、あっても、遠ざかる事はありません。

二つ目は、『鉄は熱いうちに打て』と言われるように、中学生として特に大切なことは、基礎・基本をしっかりと身に付けることです。これからの六年間は、人生の大切な土台作りするときです。

好きなことばかりでなく、いろいろなことをしっかりとと学んでください。無駄になることは何ひとつありません。

三つ目は、今まで述べた二つのことを、しっかりと続けながら、神様から自分に与えられた賜を、この六年間で見つけて下さい。神様から一人ひとりに与えられた能力に、気付き、それを生かして、社会にも貢献できる人になって欲しいと願っています。

ヨハネの福音書によれば、復活したイエスは、弟子たちが平和であることを望みました。そして、その平和を世界に伝えるようにと、弟子たちを送り出しました。君たちの、どのような学びも体験も、そしてまた、一人ひとりに神様から与えられた能力は、すべて平和のために役立たせることができます。

知恵と愛をもって、世界に貢献できる人に成長して欲しいと願っています。最後に、お祈り致しますが、神様の豊かなお恵みが、新入生とその保護者の皆様、本校教職員、また立教に連なるすべての人々にありますように、お祈り致します。

「向上心」と「隣人愛」

中一組主任より

新入生諸君に期待したいこと。それは「向上心」である。自分を高めるために進んで学習、部活、委員会などに励んで欲しい。しかしこれだけでは足りない重要なことがある。それを示す聖書のことばは、『たとえ、あらゆる知識に通じていようとも、山を動かすほどの完全な信仰を持てなければ、無に等しい。』これを君たちが当てるべきか、どうなるか。たとえ成績が良くても、部活や委員会が活躍して、愛がなければ活打たないという事になるのではなか。たまたま隣に居合わせたい人と思える心を養って欲しい。これを「隣人愛」という言葉として君たちに贈りたい。君たちにはこの学校で自分の鍛え、得た力を人のために使え、多くの人に感謝されるような生活を作って欲しい。感謝されれば嬉しい。自信が、そこで君たちは自分の生きない価値を見いだせるのではないだろうか。

(一組 重原 康秀)

最初の自分

大切な事

入学、おめでとう。
「中学入学」というのは人生の中でとても大きな出来事の一つだと思えます。ですがぜひ、「出来事」として残すだけでなく、今日この時の自分の気持ちも、忘れずにいて下さい。

自分は今日、何を楽しみにし、何に不安を抱き、何を決意していたのか……それを覚えていてほしいのです。「最初の自分」を残しておくことは、大切なことです。

中学卒業までに何一つ変わらないという人はいません。ほんの少しでも、必ず成長があるはず。三年後、あなたたちがそれぞれ、今日の自分と卒業の日の自分を見つめ、何が変わったのか考え、話してくれることを楽しみにしています。

(二組 廣瀬 由紀)

新入生の皆さん御入学おめでとうございます。これから立教生として歩いていく上で大切な事を三つ挙げます。

一、あいさつ
二、学習習慣
三、学生会活動

一、基本的な生活習慣の中でとても大切な事で、気持ちの良い一日を過ごす為にもあいさつをしっかりと行い、自分自身を大切にします。

二、自分の勉強スタイルを身に付ける為に日々の家庭学習（特に復習）を忘れずに、集中して、けじめをもって授業に臨んでほしいと思います。

三、自分に合った部活動を選び、先輩と共に活動することも、とても大事です。

以上三つを大切に学校生活を送って下さい。

(三組 西澤 宏佳)

高一組主任より

人間的に更なる成長を

初心忘れるべからず

入学に向けて

赤編模様のネクタイから緑編模様のネクタイに変わり、高校生になった実感を感じ、引き締まった気持ちで入学式に臨み、多岐にわたります。諸君は「存じの通り、本校の教育目標に「テーマを持って真理を探究する力を育てる」とあります。中学三年間の生活の中で自分のテーマを幾つか見だし、それに向かい懸命に取り組みんだ人も多いと思います。諸君は自信を持ってそのことを他人に語れますか。成果をあげる事も大切ですが、三年間を振り返ったとき、懸命に取り組む、「自分はこういふ点で人間的に成長できた」と誇れる様な高校三年間を過ごして欲しい。周囲に左右される事なく、自分のテーマ実現への努力を通じて精神的に更に成長できる事を祈念しております。

(一組 橋本 博)

人間というものは、全く新たな環境に置かれると、緊張感ゆえに暫くは張りのある生活が送れるようです。もちろん、極度の緊張は不安や恐怖という気持ちにもなってしまうことが、逆に物事に謙虚な気持ちで丁寧に取り組む姿勢も生まれます。ただ、一旦慣れれば、感度が削がれ、当初の理想や目標を下方修正したり、刹那的な楽しみに浸ったり、利己的な楽しみを優先して、綴っている私を自戒を込めて、100%勝負というよりも、常に100%の心で取り組むべきです。難しいので、諸君のしなやかな感受性も大切にしながら、ゆとりある取り組みを期待します。次の三年間は、これまでも増して、今日から始めましょう。

(二組 安原 章)

入学おめでとう。
皆さんに私の経験上の格言というアドバイスをしたいと思います。

「仕事は不平等に与えられるものだ」
学校という場所は平等とあるが、仕事というものは決して平等に与えられるものではない。四月からは決まらぬ、委員会だ、仕事量に言わなければ、さまざまなサボるうと思えば、サボることも出来るし、でも逆に信用される人の仕事はどんどん増えていく。仕事を任される人にならう。仕事を任される人と与えられるものばかりではない。自らに課す仕事（学習）だってあるはずだ。与えられた仕事に喜びを持って取り組む、他者のために働いて、そんな立教生を目指してほしい。

(三組 高橋 整)

中学新入生のために —心がけて欲しいこと—

① **意欲的・積極的な生活**
自分なりのしっかりと生活目標を持ち、毎日生き生きと意欲を持って生活し、だからだらした無気力な生活におちいらぬように!!

② **規則正しい生活習慣**
新しい中学校生活に慣れるまでは疲れやすいものです。早寝早起きを心掛け、健康管理に気をつけ、遅刻・欠席をなくしましょう。また、家庭学習の習慣も身につけるようにして下さい。何事もスタートが肝心です。

③ **何事にも集中力を**
遊びと勉強の「けじめ」が大切です。貴重な時間を最大限有効に使う工夫をしましょう。特に授業に対する集中力を!!

④ **忘れ物防止のために**
本校では、各種の提出物が多いので、教具教材はもちろんのこと、提出物等については期限をしっかりと守って下さい。メモ帳を用意して、整理のメモをとる習慣を身につけて下さい。約束を守ることは生活の基本です。

⑤ **友人を大切に**
自分のわがままを抑え、困っている人や弱い立場にある人に優しい思いやりの気持ちを持つようにしましょう。お互い尊重し合い、友人を大切にすることは、自分の学校生活を楽しくする原動力になります。

⑥ **学校生活を積極的に**
充実した学校生活は、学習活動のバランスによって成り立ちます。特性、適性を十分考え、自分の意志で決定し、積極的に参加したものは他で、この項については他の場で詳しい説明がありますので、参考にして下さい。

⑦ **「朝の読書」の習慣を**
「読書は心の糧」と昔から言われています。一年生では、朝の八時十五分から二十五分まで、クラスにおいて「朝の読書」を実施しています。朝、五分早く登校し、図書館や先生方から推薦されたよい本を自分からすすんで読んでいきましょ。忙しい朝の十分間をぜひ、「心の糧」の時間としてください。

⑧ **家庭での役割も**
中学生になったのを機会に、今まで親に頼っていたことを自分の仕事に切り替

え、家族の一員としての立場を自覚し、自らの責任において、その役割をしっかりと果たして下さい。自分のことを自分で行う身辺的な自立の出来ないものは、人格的な自立も出来ないものです。

⑨ **学校生活の心得**
学校の秩序を維持するためにいろいろな規則があります。新入生諸君はルールを守って、楽しい学校生活を送りたいものです。(別紙のプリントをよく読んで下さい。)

【**学校時**】
始業・終業などの、時間の区切りは次の通りです。

始業	8:20
始業	8:20~8:30
1	8:30~9:20
2	9:30~10:20
(モーニングブレイク)	
3	10:35~11:25
4	11:35~12:25
(昼休み)	
5	13:10~14:00
6	14:10~15:00

※水曜日は朝礼のため始業は八時です。
下校時刻は、五時五十分です。

【**教科担任制**】

教科	時数	担当
国語	4	廣瀬 山口(啓)・上野
社会	3	重原
数学	4	酒井
理科	3	宇津木
音楽	2	西澤
美術	1	長谷川
保健	3	増田・梅野
英語	5	宮谷(直) 田中 マーティン
聖書	1	菅原
礼拝	1	菅原・鈴木(利) 組主任
学活	1	組主任

【**欠席の場合**】
朝八時~八時十分(水曜日は十分程早めに)までの間に学年の先生に連絡して下さい。
職員室直通の電話番号は東京〇三 三九八五―二七二三 (中一・中二) 三九八五―二七二四 (中三・高一) 三九八五―二七二五 (高二・高三)
▽欠席届——学校を欠席した人は、学校所定の欠席届を担任に提出すること。届には、学年・組・番号・氏名と欠席理由・月日を記入すること。長期にわたる場合は(体育の見学も)、医師の診断書を提出してもらふこともあります。

保健室より

保護者会の御案内

▽開設時間——八時~五時五十分。ただし、十二時二十五分~十二時四十分は緊急の場合のみ。
▽利用方法——具合の悪いところをはっきり言って指示に従うこと。また、処置を受けた人は必ず名簿に記入すること。
▽体育見学届——具合が悪くて体育を見学する時は、届の用紙に記入し、保健体育担当の先生の許可を得ること。見学届の用紙は保健室にあります。
▽毎週水曜日の十時三十分~十二時は、校医が来校します。

前期の行事予定は、別紙プリントを参照して下さい。早速ですが、四月十一日(土)午後一時三十分より各組教室にて、第一回の組別保護者会を行います。ご出席下さい。

相談室から

ひとりでは悩まず相談しよう
立教池袋中高には、皆さんの心の整理や問題解決の援助をするために相談室があります。学習や進路のこと、家族や友人などの人間関係のこと、自分の健康や性格のことなど、どんなことでも相談に来てみて下さい。内容についての秘密は守られます。
相談申し込みは保健室で受け付けます。

入校期訓練

新入生諸君は、七日(火)~十日(金)までを、学校生活に慣れる期間として、授業を行わず、担任から学校生活の案内などを行います。詳細は別紙プリントを参照して下さい。

今日の聖句

「イエスはトマスに言われた。『わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。』」

「ヨハネによる福音書」第二〇章二九節

これはイエス様をどう信じるかに関わる聖書の言葉ですが、私たちの日常の中で、見ることが出来るなくても信じることを出来るものは、愛、友情、絆など数多く多くあります。人と人との関係においても、見えなくてもお互いに大切に出来る何かを持いたいと思います。

二〇〇八年度中学三年生受賞者

マカダム記念賞
宮崎 宏輝・田中 潤
東京都体育優良賞
林 昂平

学生会賞

吹奏楽部
青木 孝憲
阿部 泰明・清水 雄稀
藤田龍之介・荻野 宏樹
北川啓太郎・木藤 遼太
阿部 一仁・大久保創理
岸田 竜馬・小山 慧悟
三井 裕史・山田 圭介

演劇部

数理研究同好会
(宮崎 宏輝・鈴木 海地
武田桃太郎・水鳥 伸吾)
ゴルフ部
(沼沢 慧太・横島 太一
藤波伶於南)
水泳部
(須藤 純樹)

個人

沼沢 慧太 (ゴルフ部)
田中 潤 (山岳スキー部)
林 昂平 (陸上競技部)

精勤賞

一組
阿部 真基・今村 樹
木村隆一郎・遠矢 凌
野間 恒平・藤田 大生

二組

田口 佳之・田中 公人
水鳥 伸吾・守川 航輔
森田 拓光・湯川 健

三組

阿部 一仁・石井 友樹
宇佐美 凌・篠山 翔太
飛田 晃典・中村 亮太
仲谷 一弘・沼沢 慧太
原真 陸・三井 裕史
皆川 裕真・山田 健

